

開催日時：平成30年2月27日（火）13：00～16：00

開催場所：釧路市観光国際交流センター

第24回釧路湿原自然再生協議会 議事要旨

1. 開会

2. 第8期（後期） 釧路湿原自然再生協議会の運営について

1) 第8期（後期） 協議会構成員の公募結果報告

事務局から第8期（後期）協議会構成員の公募結果について報告が行われた。

議事の前に、事務局より、中村太士会長が釧路湿原などの北海道の自然再生や保全のために主導的役割を果たしたことなどの功績が評価され「平成29年度北海道科学技術賞」を受賞されたことの報告があり、中村太士会長からの挨拶があった。

3. 議 事

■議事1：第8期（前期）協議会の収支報告

事務局から第8期（前期）協議会の収支報告を行い、協議会委員相互で収支内容を確認した。

- ・ 質疑は無かった。

■議事2：平成28年度表彰団体の活動報告

釧路湿原自然再生協議会では、平成28年度に釧路湿原自然再生基金（寄付金）を活用して、釧路湿原自然再生に資する地域の取り組みを応援する目的で、顕著な功績を挙げた民間活動団体へ感謝状及び活動支援金の贈呈を行った。

この活動支援金を活用した活動について、各団体より報告が行われた。

活動報告団体

- ① 釧路川カヌーネットワーク
- ② 公益財団法人日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ
- ③ 標茶西地区農地・水保全隊
- ④ 鶴居村森林組合
- ⑤ 北海道標茶高等学校

■議事3：第23回釧路湿原自然再生協議会以降の小委員会開催報告

事務局から第18回及び第19回湿原再生小委員会、第21回旧川復元小委員会、第22回土砂流入小委員会、第17回森林再生小委員会、第15回水循環小委員会、第4回地域づくり小委員会、第29回及び第30回再生普及小委員会の開催概要について報告した後、内容について協議が行われた。

【湿原再生小委員会について】

○幌呂地区自然再生事業について

(会長)

- ・ H28年度の土砂置場は安定していて問題なさそうだが、将来的にはどうするのか。

(事務局)

- ・ 鶴居村から利用計画があると聞いているが、置き土の沈下が続いていることもあり、もう少し状況をみて対応を決めていきたい。

○広里地区自然再生事業について

(委員)

- ・ 広里で検討を断念した遮水壁の工法は、釧路湿原の他の場所で検討したり実施しようとする考えはあるか。

(事務局)

- ・ 他の地域で遮水壁を使って事業を行う考えはない。

(会長)

- ・ 残念ではあるが、多額の工事費用が掛かること、遮水壁で右岸側だけ地下水位を上げて左岸側の農地の水位を低く保つこと自体が無理なことであった。湿原再生小委員会で、費用対効果も考えて決定されたことだと思う。
- ・ 将来的に土地利用が変わり、農地を譲っていただけることがあれば、簡単な堰を設けて水位を上げるなどの方法もあると思う。

(委員)

- ・ いろいろ検討した結果、遮水壁を採用することが困難なことが明らかになったということ。状況の変化を引き続き把握していくという意味でモニタリングを継続することが適当と理解する考え方の方が建設的だと思う。

【土砂流入小委員会について】

(委員)

- ・ 久著呂の河道安定化対策では、帯工を設置した下流で河床が低下したため、この対策としてまた帯工を設置するとのことだが、もし仮に、帯工を追加していくのではなく取り除いた場合どうなるのか。
- ・ ここは両岸が壁のようで、蛇行ができない地形になっている。水流が早い場所だが、昔は帯工がなく自然に流れていたと思うが。

(事務局)

- ・ ここは溶結凝灰岩で洗掘しやすく、帯工は岩河床の表面に礫をためることにより、掘れやすい土層が露出しないようにするために設置している。

(会長)

- ・ ここは昔蛇行していたのを直線化して掘ったところで、乾湿風化しやすい岩質だったため河床が掘れていった。この土砂が釧路湿原の中に入ってきているので、対策し続けないといけない状況になった。

(委員)

- ・ 土砂の問題は自然再生事業の一番大きなテーマで、蛇行復元や施設設置などをして成果は出ているが、中間貯蔵施設をつくっただけで、土砂を撤去しないと、たまった土砂が下流に流れる可能性がある。定期的に公共事業で土砂を撤去する必要がでてくるのではないか。

(事務局)

- ・ 久著呂地区の調整地については、ケルミ内の年間堆積土砂厚は数ミリ程度で、あぜで囲まれているような状況のため、一度堆積した土砂が流出していくことはないと考えている。

(会長)

- ・ 私も堆積したものが再度出ていくようになるとは思わない。しかし、ずっと堆積が進めばそこに樹木が生えたり、植生が変化していく可能性はある。またポイントとして、将来的な流域対策について、所有者のある土地もあるなか、どのような一歩を踏み出せば良いか、開発局、林野庁、民間NGOのそれぞれでできることがあると思う。難しいことだとは思いますが委員から提案のような形で発言していただけると、この協議会で何かアクションを起こせると思う。

(委員)

- ・ 農地や林野で使っていない未利用地がたくさんあるので、少しずつ調査をしてモデル的な対策ができないか。
- ・ また、今は釧路川など大きな河川で旧川復元事業を行っているが、小河川でもっと簡単に元に戻せる場所があるのではないか。調査をして実施していったらどうか。

(会長)

- ・ 今日土砂流入小委員会の委員長が欠席しているが、小委員会で検討してほしい。それぞれの部局の権限だけでは難しいことだと思うが、どこかに発生源ポイントがあれば、そこを対策していくというような、待ち受けではない対策を検討してほしい。

(委員)

- ・ 自然再生事業が行われているところ以外の未利用地がかなりあるが、農業サイドでは今後どうしていこうという考えはあるか。

(事務局)

- ・ 我々の立場では、未利用農地を農地に戻していくお手伝いはできるが、農地を無くすために何かを行うということは何とも言えない。

(会長)

- ・ 未利用の農地を農業サイドが自然再生していくことは現状の法律では難しい。川のそばで、治水安全度が高まる場合は、個人所有の未利用地を買って自然再生していくことはおそらく可能性はあるが、協議会の中で議論して頂くのが良いと思う。特に、放っておくと釧路湿原に対して問題が生じる場所があれば、各小委員会で具体的な意見を挙げてほしい。

【旧川復元小委員会について】

(委員)

- ・ 土砂が湿原へ流れ込み、湿原本来の植生が変化することを抑えたいということで茅沼地区の旧川復元などの取り組みを続けてきて、成果が出ていると報告を受けている。次はヌマオロ地区で予定されているが、これらの積み重ねをさらに違う河川にも広げていくやり方で、私達は取り組んでいく必要があると思う。

【森林再生小委員会について】

- ・ 質疑は無かった。

【水循環小委員会について】

(会長)

- ・ 水循環小委員会で検討されているSWATモデルについて、最終的にどのように自然再生事業に活用していくのか。

(事務局)

- ・ 今は湿原に入る部分での水際対策をしていて、本来は発生源対策が必要であるが、どこから発生してきているか現状ではわからない。なので、まずシミュレーションモデルをつくって場所を推定して、実測調査で確かめ流域全体の対策を検討していくために、このモデルの検討を進めているところである。

(会長)

- ・ ほかの小委員会とも連携し、ぜひその方向で検討して行ってほしい。

【地域づくり小委員会について】

- ・ 質疑は無かった。

【再生普及小委員会について】

(委員)

- ・ ウェブサイトによる釧路自然再生事業の情報提供・発信についてのアンケート結果は、各事務局で参考にしてもらおうとのことだったが、情報発信は普及を考えるうえで大事なことだと思うので、引き続き再生普及小委員会で議論を続けて行ってほしい。

(会長)

- ・ 研究者が解析のためにデータを得たいときと、一般の人が見に行きたいときでは、ウェブサイトで入手したい情報の仕様は異なる。将来的に良いので、サイトの構造自体を変えていくことを検討してもらえないか。

(再生普及小委員会 委員長)

- ・ 釧路湿原に関して情報を発信しているサイトがいくつかあるが、様々な情報を分かりやすく利用しやすい形で提供することが求められていると思うので、(再生普及小委員会で) 検討を続けていく。

■その他、全体を通しての質問等

(委員)

- ・ 各小委員会で目標を立て、モニタリング状況と達成状況を報告されているが、学校や地域を回る中で、物理的な改変をしたことで負の影響はないのかと聞かれることがある。いろいろと配慮して事業していると思うが、プラスの面もあるがこういうマイナスの面もあるという情報は、一般の人が自然再生を知っていく上で重要だと思う。ぜひこのような場で報告してほしい。

(会長)

- ・ その通りだと思う。各小委員会で負の影響がないように検討して進めてきたため、負の影響は最小限に抑えられていると思うが、地域の方からそのような意見があるとのことなので、各小委員会から報告するようにして頂きたいと思う。

—以 上—

第 24 回釧路湿原自然再生協議会における課題と対応方針

項目	発言概要	回答および今後の対応方針（案）
湿原再生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広里地区は、状況の変化を把握していくためひき続きモニタリングを継続すると理解するのが建設的な考えだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植生、地下水位の変化等についてモニタリングを継続し、必要に応じて対応を検討していく。
旧川復元	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧川復元で成果が出ており、次はヌマオロ地区が予定されているが、さらに違う河川にも広げていく取り組みが必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひき続き検討する。
土砂流入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土砂の堆積効果は出ているようだが、堆積した土砂がまた下流に流出するのでは。将来的には定期的に土砂を撤去する必要がでてくるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間堆積厚は小さいため、再び流出する可能性はほとんどないと考えている。 ・ 流域の発生源対策を併せて検討していく。
森林再生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質疑なし。 	
水循環	<ul style="list-style-type: none"> ・ SWAT モデルについて、どのように自然再生事業に活用していくのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土砂の発生源対策のなかで使えるよう検討を進めている。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質疑なし。 	
再生普及	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究者と一般の方ではウェブサイトで入手したい情報は異なる。将来的にで良いので、サイトの改良を検討してもらえないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討を続けていく。
全体を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各小委員会の報告で、自然再生事業の目標達成状況だけではなく、事業による負の影響の情報も報告してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各小委員会からの報告を行う際には、負の影響についても報告するよう努める。